

第二項 二十七、八年戰役ヨリ三十七、八年戰役前ニ至ル時代
明治二十九年三月二十九日海軍艦船條例ヲ定メ軍艦條例ヲ廢シ各艦船ヲ四種ニ區別セリ左ノ如シ

艦船ヲ左ノ四種ニ分ツ

第一種軍艦、第二種軍艦、水雷艇、雜役船舟

第一種軍艦トハ戦闘ノ役務ニ堪フル軍艦ヲ謂フ

第二種軍艦トハ戦闘ノ役務ニ堪ヘザルモ常備ヲ帶ビ航行シ得ル軍艦ヲ謂フ

水雷艇トハ魚形水雷使用ノ主旨ニ從ヒ特種ノ構造ヲ有シ戦闘ノ役務ニ堪フル艇ヲ謂フ

雜役船舟トハ軍艦、水雷艇及之ニ裝置セル小蒸汽船、端舟ヲ除クノ外總テ他ノ船舶舟艇ヲ謂フ

同日 軍艦職員條例中水雷主機ヲ廢シ機關長ニテ其ノ職掌ヲ繼承スルコトトナレリ斯クテ魚形水雷内

機及水中發射管等整備上ノ責任ハ依然機關科ニ屬シ法規上ニ於テハ大正八年制度改正時ニ及ベリ

明治三十年五月三十一日軍艦職員條例ヲ廢セラレ軍艦職員勤務令ヲ制定セラレ各職員ノ所掌ヲ詳記セ
 リ水雷術(科)ニ關係アル事項ヲ摘記スルコト左ノ如シ蓋シ爾後約二十年間ニ亘ル本令ノ骨子ヲ作スモ
 ノナリ

一、艦長ニ關スルモノノ内特ニ水雷術ニ關係アル條章

第二十九條 艦長ハ其ノ艦ニ砲術長ヲ置カレザルトキハ水雷長ヲシテ若シ水雷長ヲモ置カレザルカ若ハ水雷長ヲ置カルルモ分隊長

ヲ兼ヌルトキハ專任大尉分隊長中先任者ヲシテ砲術長ノ職務ヲ執行セシメ又水雷長ヲ置カレザルトキハ砲術長及大尉分隊長中兼
 職無キ適任者ヲシテ水雷長ノ職務ヲ執行セシムベシ

第九十八條 艦長ハ戦闘及諸操練ノ際航海長、砲術長、水雷長ヲシテ自己ニ代リ航路砲銃若ハ水雷ノ使用ニ關スル指揮號令ヲ掌ラ

シムルコトヲ得

第百六條 艦長ハ水雷長ヨリ魚形水雷艇ノ改正ヲ申出ヅルトキハ其ノ事實ヲ審査シ事重大ニシテ其ノ艦ニテ施行シ能ハザルモノト認メタルトキハ所管長官ニ具申スベシ若シ事平易ニシテ其ノ艦ニテ施行シ得ベシト認ムルトキハ之ヲ改正セシムベシ但シ其ノ艦ニテ改正シタルトキハ其ノ都度之ヲ關係ノ水雷庫ニ通知スベシ

二、水雷長ノ條章

第九十九條 水雷長ハ左ニ列記スル兵器物品ヲ整頓シ常ニ之ヲ清潔有効ニ保テ實用ニ支障無カラシムベシ

但シ魚形水雷及發射機等ノ機械裝置ノ整理ハ機關長ニ屬ス

諸水雷、諸發射機、探海電燈、電燈電路、電纜電線、諸電池及流動電氣ノ諸電路、水雷方位盤、夜中照準器、

流動電氣器具、電氣的通信裝置、避雷針、水雷用具及屬具（魚形水雷機械部用ノモノヲ除ク）、水雷用試驗器具

前項ニ關シテハ各兵器ヲ指揮スル將校ト交渉スベシ又兵器及附屬裝置中機械裝置ノ部ノ整理ハ機關長ノ責任ニ屬スト雖水雷長ハ克ク其ノ現狀ニ注意シ機關長ト交渉シテ常ニ之ヲシテ實用ニ支障無カラシムルコトヲ努ムベシ

第百條 水雷長ハ主管兵器ノ効力ヲ熟知シ種々ノ場合ニ於テ最大ナル効果ヲ奏セシムルコトニ就キ十分ナル研究ヲ爲スベシ

第百一條 水雷長ハ主管ノ需品ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障無カラシムベシ

第百二條 水雷長ハ常ニ遲滯無ク自己ノ主管ニ屬スル需品ニ關スル帳簿ヲ整理スベシ

第百三條 水雷長ハ水雷引揚及運搬裝置ヲ檢シ常ニ實用ニ支障無カラシムベシ

第百四條 水雷長ハ時々水雷裝藥ノ現況ヲ調査シ實用ニ支障無カラシムベシ

第百五條 水雷長ハ水雷裝藥ヲ整頓シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保テ晴朗ノ天候ニ於テハ時々送風ヲナシ又溫度ヲ上昇セシメザルコト

ニ注意シ規定ノ時日毎ニ庫内ノ溫度及濕氣ヲ測定スベシ

第百六條 水雷長ハ水雷裝藥庫ノ注水管竝ニ排水管ヲ有効ニ保存スルコトニ注意シ其ノ艦入渠スルトキハ機關長ノ立合ヲ得テ注水

試驗ヲ行フベシ

第百七條 水雷長ハ水雷藥庫ヲ開クトキハ能ク之ヲ監視シ不慮ノ過失ヲ生ゼザルコトニ注意スベシ

第百八條 水雷長ハ己ノ主管ニ屬スル器具需品貯積ノ現況ヲ熟知シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保チ且整頓セシムベシ

第百九條 水雷長ハ艦長水雷長主管ノ兵器及倉庫ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スベシ

第百十條 水雷長ハ艦長ノ命アルトキハ戰關中水雷ノ使用ニ關スル號令ヲ掌ルベシ

第百十一條 水雷長ハ戰關後速ニ其ノ主管ニ係ル兵器裝藥及物品ノ缺損ヲ調査シ之ヲ副長ニ報告シ且全力ヲ盡シテ之ヲ修補シ再戰

ニ應ズル準備ヲ爲スベシ

第百十二條 水雷長ハ水雷衛上ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ艦長ニ提出スベシ

第百十三條 水雷長ハ水雷衛ニ關スル部署ヲ熟知シ常ニ其ノ便宜ヲ考査シ制定若ハ改正ヲ要スルトキハ意見ヲ具シ艦長ニ呈出ス

ベシ

第百十四條 水雷長ハ水雷ノ居曲度表ヲ調製シ常ニ實用ニ支障ナカラシムベシ

第百十五條 水雷長ハ魚形水雷縱舵ノ改正ヲ要スルトキハ之ヲ艦長ニ具申スベシ

第百十六條 水雷長ハ魚形水雷ヲ發射スルトキハ一回毎ニ補機分擔機關士ノ立合ヲ得テ調整善良ナリトノ通知ヲ得タル後ニアラサ

レバ續テ之ヲ發射スベカラズ

第百十七條 水雷長ハ魚形水雷發射毎ニ其ノ進路ニ注意シ各水雷特有ノ性質ヲ研究スベシ

第百十八條 水雷長ハ時々發射管及發射艇ノ膽中ヲ檢シ異狀アルトキハ之ヲ艦長ニ報告スベシ

第百十九條 水雷長ハ主管兵器ヲ新設修理改造スルトキハ常ニ其ノ工事ニ注意シ適當ナラザルコトヲ認ムルトキハ直ニ之ヲ艦長ニ

報告スベシ

第百二十條 水雷長ハ水雷衛ノ熟達練習ヲ圖リ下士卒ノ教育ヲ分任シ掌水雷長水雷衛教員以下水雷ニ關スル部署諸員ノ職務ヲ監督

シ其ノ行狀技能ヲ詳知シ又下士卒ノ黜陟進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス

第百二十一條 水雷長ハ水雷衛ニ關スル操式及規程ノ嚴確適切ニ行ハルルヤ否ヤヲ監督シ若シ之ニ關シ改正ノ必要ヲ認ムルトキハ

案ヲ具シテ艦長ニ呈出スベシ水雷長ハ水雷術ニ關スル事ニ就キ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ呈出スベシ

第二百二十二條 水雷長ハ其ノ艦ニ水雷艇ヲ裝載スルトキハ該艇長ノ職務ヲ監督シ又其ノ技術ノ發達ヲ圖ルベシ

第二百二十三條 水雷長ハ砲術長ヲ置カザル艦ニ在リテ艦長ノ命アルトキハ砲術長ノ職務ヲ執行スベシ

第二百二十四條 水雷長ハ其ノ職ヲ退クトキハ主管ニ屬スル兵器諸品其ノ他必要ノ事件ヲ新任者ニ引繼ギ共ニ之ヲ艦長ニ報告スベシ

第二百二十五條乃至第二百二十八條 水雷母艦及豫備艦ノ水雷長ノ件 (略ス)

(參考)

水雷術(科)ニ關係アル其ノ他ノ職員ノ所掌ヲ左記ス(摘録)

一、機調長

(一) 機調長ハ魚形水雷ノ機關及機械的裝置並ニ其ノ要具ヲ管理シ常ニ之ヲ清潔有効ニ保チ實用ニ支障ナカラシムベシ

(二) 機調長ハ水雷發射機及其ノ機械的裝置ヲ監視シ其ノ故障ヲ認ムルトキハ之ヲ艦長ニ報告シ其ノ主管者ト協議シテ之ヲ

修理シ其ノ艦内ニ於テ修理シ能ハザルモノハ之ヲ艦長ニ具申スベシ

二、掌水雷長ハ水雷長ノ命ヲ承ケ水雷長主管ノ兵備品中機調長ノ管理ニ屬セルモノ一切ヲ守護シ其ノ手入掃除ヲ監督シ其ノ

取扱方法ノ制規ニ反ラザルヤニ注意シ水雷藥庫ヲ整頓シ水雷科諸倉庫ヲ管理シ又其ノ分擔ニ屬スル諸品ヲ受給スベシ

掌水雷長ハ水雷長ノ監督ヲ受ケ水雷術ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又水雷長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スベシ

三、少尉ハ航海長、砲術長、水雷長若ハ大尉分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ各其ノ長ノ職務ヲ補佐シ又關係部員ノ黜陟進退ニ關

シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス

四、水雷術教練ハ水雷長ノ命ヲ承ケ水雷術ニ關スル下士卒ノ教授ヲ掌ルベシ

五、水雷上(機關科下士又ハ卒)ハ前諸條ニ示セル機關部員ノ職務ノ外(前諸條ハ略ス)補機分擔ノ大機關士分隊長ノ命ヲ承ケ

魚形水雷及發電機等ノ保存整理及修理等ヲ掌ルベシ

同三十一年三月二十一日軍艦及水雷艇類別等級ヲ定メラル之レ現制度ノ基礎ヲ爲スモノナリ左ノ如シ

艇 雷 水				艦 軍													
四	三	二	一	驅 逐 艦	水 雷 母 艦	通 報 艦	砲 艦	海 防 艦			巡 洋 艦			戰 艦		類 別	
								二 等	一 等	三 等	二 等	一 等	三 等	二 等	一 等		二 等
等	等	等	等	艦			千噸 未滿	千噸 以上	巡洋艦ニ同シ			三千五百噸未滿	七千噸未滿 三千五百噸以上	七千噸以上	一萬噸未滿	一萬噸以上	計 畫 排 水 量
二十噸未滿	七十噸未滿 二十噸以上	百二十噸未滿 七十噸以上	百二十噸以上														

(備考)

艦船ノ種別及艦船、特務艦艇ノ類別等級等ノ制定ハ明治六年八月艦船ヲ軍艦、運送船ノ二種ト定メラレシニ始リ爾後數次ノ改廢アルモ水雷艦艇ニ關スルモノニ就キ明治初年以來昭和四年ニ亙ル變遷ノ概要ヲ示セバ左ノ如シ

明治二十三年八月艦船別ニ於テ始メテ水雷艇ヲ見ル蓋シ水雷艇ハ最初水雷船ト稱シ明治十三年英國ニ注文シ横須賀造船所ニ於テ組立テ十四年竣工セル一隻ヲ嚙矢トシ十七年尙三隻ヲ竣工シ其ノ排水量ハ各四十噸ナリシガ二十一年ニ至リ二百五噸ノモノヲ製出セリ小艦是レナリ是ニ於テ本條例中ニ水雷艇ニ關スル規定ヲ見タリ

明治二十六年十月水雷艇類別ヲ左ノ如ク定ム(明治三十一年三月廢止)

水雷艇

一等 七十噸以上

二等 二十噸以上七十噸未満

三等 二十噸未満ニシテ艦船ニ搭載スベキモノ

明治二十九年三月艦船條例中水雷艇ヲ定義スルニ「魚形水雷使用ノ主旨ニ從ヒ特種ノ構造ヲ有シ戰鬪ノ役務ニ堪フル艇ヲ謂フ」トセリ

明治三十一年三月水雷母艦ノ稱始メテ定ル尙水雷艇ヲ左ノ五等級トセリ

水雷艇

驅逐艇

一等 百二十噸以上

二等 百二十噸未満七十噸以上

三等 七十噸未満二十噸以上

四等 二十噸未満

(註) 驅逐艇ハ最初水雷艇驅逐艇又ハ水雷驅逐艇ト稱シ明治三十年英國ニ注文シ三十一年竣工セルモノヲ嚆矢トス東雲、叢雲之レナリ

明治三十三年六月驅逐艇ヲ前記ノ水雷艇ノ内ヨリ除キ之ヲ驅逐艇ト改メ軍艦ノ類別中ニ入レタリ

明治三十八年十二月驅逐艇ヲ軍艦ノ類別中ヨリ除キ獨立對立セシメ尙潜水艇ヲ新ニ艦船種別ニ追加セラル、潜水艇ハ米國ニ注文

シ明治三十七年横須賀造船廠ニ於テ組立テ翌三十八年竣工セルモノヲ嚆矢トス、本改正ニヨル艦船種別左ノ如シ

軍艦、驅逐艇、水雷艇、潜水艇、運送船、病院船、工作船、雜役船舟

大正元年八月驅逐艇及水雷艇等級ヲ左ノ通定ム

驅逐艇

一等 千噸以上

二等 千噸未滿六百噸以上

三等 六百噸未滿

水雷艇

一等 百二十噸以上

二等 百二十噸未滿

大正五年五月艦船種別中ニ敷設船ヲ加フ尙軍艦驅逐艇、水雷艇、潜水艇ヲ艦艇ト總稱シ敷設船、工作船、運送船ヲ特務船ト總稱ス而シテ水雷母艦、航空隊母艦ノ呼稱ハ艦船役務ノ條下ニ之ヲ規定スルコトトナル

大正五年八月潜水艇ヲ一、二等トナシ一等ハ水上六百噸以上二等ハ同六百噸未滿トセリ

大正八年三月潜水艇ヲ潜水艇ト改メ尙其ノ等級ヲ左ノ如クセリ

一等 千噸以上

二等 千噸未滿六百噸以上

三 等 六百噸未満

大正九年三月軍艦、驅逐艦、潜水艇、水雷艇ヲ艦艇ト總稱シ特務艦、特務艇ヲ特務艦艇ト總稱ス 特務艦ヲ更ニ工作艦、運送艦ニ特務艦ヲ敷設艦、掃海艇、潜水艦母艦ニ區分ス

(註)本改正ニ於テ敷設艦ヲ軍艦中ニ入レ敷設艦ト改メ工作船、運送船ヲ特務艦トシ工作艦、運送艦ト改ム

敷設艦、掃海艇、潜水艦母艦ノ稱ハ雜役船中ノ區分ニ於テ已ニ存スルトコロナリシガ茲ニ特務艇トシテ定規ヲ見タルモノナリ

大正九年四月特務艇類別ヲ左ノ通規定セリ

敷設艇

一 等 八百噸以上

二 等 八百噸未満四百噸以上

三 等 四百噸未満

掃海艇

一 等 五百噸以上

二 等 五百噸未満

大正十二年六月艦船種別中ヨリ水雷艇ヲ削除セラル蓋シ從來ノ水雷艇ノ任務ハ自ラ驅逐艦、潜水艦ニテ併掌セラルルコトトナリ新造ノ要無キノミナラズ在來ノ水雷艇ハ已ニ老朽廢棄ノ域ニ達セルヲ以テナリ

昭和四年末ニ於ケル艦船種別等ヲ參考ノ爲一併掲記スルコト左ノ如シ 而シテ之等法合ハ艦船令中ニ記上セラレ從來ノ艦艇類別標準及特務艦艇類別標準ハ廢止セラレタリ

一、艦船種別(艦船令中ノ一部)

軍艦、驅逐艦、潜水艦、掃海艇、特務艦、特務艇、雜役船、

軍艦、驅逐艦、潜水艦及掃海艇ヲ總稱シテ艦艇ト謂ヒ特務艦特務艇ヲ總稱シテ特務艦艇ト謂フ
 二、艦艇、特務艦艇類別標準(同上別表)

艦艇特務艦艇類別標準

艦		軍							類
艦		砲	海防	敷設	潜水母	航空母	巡洋	巡洋戰	
艦		艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦
一 等	二 等	一 等	二 等	一 等			二 等	一 等	
千噸以上	八百噸未滿	八百噸以上	七千噸未滿	七千噸以上			七千噸未滿	七千噸以上	
別									
等級									
計									
畫									
排									
水									
量									

艇			務					特						
務			特		艇					務		特		
數			練	標	測	碎	運	工	掃	潛			驅	
設										習	的	量	水	送
艇			特	艇	艇	艇	艇	艇	艇	艇			艇	
三	二	一								三	二	一	三	二
等	等	等								等	等	等	等	等
四	八	八								水	水	水	六	千
百	百	百								上	上	上	百	噸
噸	噸	噸								五	五	五	噸	未
未	未	未								百	百	百	未	滿
滿	滿	滿								噸	噸	噸	滿	六
	以	以								未	未	未	滿	百
	上	上								滿	滿	滿	六	噸
	以	以								以	以	以	噸	以
	上	上								上	上	上	以	上
	滿	滿								滿	滿	滿	上	滿
	滿	滿								滿	滿	滿	滿	滿
	滿	滿								滿	滿	滿	滿	滿
	滿	滿								滿	滿	滿	滿	滿

備考	艇		
	潜水艦母艇	掃海特務艇	
		二等	一等
海軍大臣ハ本表ニ依リ艦艇及特務艦艇ノ類別及等級ヲ定ム	五百噸未滿	五百噸以上	

(參考) 昭和初願艦船令中別表特務艦艇類別ニ急設網艦及捕獲網艇ヲ追加セラレシコトアリシガ昭和四年三月更ニ之ヲ削除セリ蓋シ之等名稱ハ艦艇ノ任務性能ヲ餘リニ赤裸々ニ表現スルモノニシテ適當ト認メ難ク尙右艦艇ハ網ノ外機雷ヲモ搭載スル故此點ヨリ見ルモ敷設艦艇トスルヲ可ナリト認メシニ依ル

同三十五年三月二十五日軍艦部署標準ヲ定メ之ヲ公布セリ但シ甲號ハ定員五百人以上ノ軍艦ニ、乙號ハ同五百人未滿ノ軍艦(驅逐艦ヲ除ク)ニ用フ

甲號中水雷術ニ關係アル部分ヲ摘記セバ左ノ如シ

軍艦部署標準摘錄 (甲號)

- 一、戰闘部置ノ區分ニ基キ下士卒ヲ數個ノ分隊ニ分チ之ヲ第一分隊、第二分隊等ト名ク分隊ノ數ハ定員表中分隊長ノ數ニ依ル、各分隊ハ之ヲ分隊長ニ屬セシム
- 二、砲臺ノ區分ハ上中甲板ヲ通ジテ前後數個ニ横斷シ各之ニ將校分隊長ヲ配スルモノトス
機動砲ヲ指揮スル將校分隊長ハ之ニ附屬スル彈藥庫員ヲ指揮スルヲ例トス
- 三、彈藥庫員、防火隊員、其ノ他中下甲板ニ配置セラレタル兵員(中甲板ノ砲臺、水雷發射管ニ配セラレタル兵員ヲ除ク)ヲ以テ一個ノ分隊ヲ編制シ之ニ首席將校分隊長ヲ配スルヲ例トス

中下甲板ヲ指揮スル將校分隊長ハ戰關部署及戰關部署ヲ基礎トスル諸部署ニ於テ機關部以外ニ配置セラレタル機關部雜務員ヲ指揮ス

四、水雷發射管員ハ其ノ方位盤ノ所在甲板ノ砲臺ヲ指揮スル將校分隊長ノ配下ニ屬セシムベシ

五、探海燈員ハ其ノ所在甲板ノ砲臺ヲ指揮スル將校分隊長ノ配下ニ屬セシムベシ

六、電線掛員、補索員、信號部員等ハ各適宜ノ將校分隊長ノ配下ニ屬セシムベシ

七、水雷艇防禦ノ際哨艇ト爲スベキ端舟ノ端舟員ハ各舷直每ニ編制ノ固有定員ニ依ルノ外、探海燈員、速射砲員及其ノ彈藥庫員ノ

主ナルモノヨリ取ルテ避クベシ

八、戰關部署ニ於テハ左ノ如ク各種ノ兵員ヲ配スルテ例トス

一、砲臺下士	兵	曹	一、電線掛員	水兵部員
一、砲員	水兵部員	一、彈藥庫員	水兵部員	機關部員
一、水雷發射管員	水兵部員	一、探海燈員	水兵部員	水兵部員
一、補索員	信號部員	一、運彈員	水兵部員	水兵部員、機關部員、主計部員
一、傳令員	水兵部員、信號部員、機關部員	一、信號員	水兵部員	信號部員
一、流籠及流籠機員	機關部員	一、防火隊員	彈藥及負傷者運搬ヲ兼テ	軍樂部員、機關部員、船匠部員
一、軍醫官補助員	軍醫部員、看護部員、傭人	一、烹炊員		主計員、傭人

九、機關部補助機關員ハ電機、水壓機、水雷並ニ水雷用機具其ノ他機械室又ハ流籠ニ屬セザル獨立機具ノ運轉操縱ニ關スル作業ニ從事ス

本部署標準ハ其ノ後制定セラレタル艦内編制ニ彷彿シ現時ノ部署標準トハ甚シク其ノ内容ヲ異ニスルモノナリ

明治三十三年六月二十一日勅令ニ依リ艦隊(鎮守府艦隊)條例ノ一部ヲ改定セラル蓋シ驅逐隊ヲ艦隊(鎮守府艦隊)ニ編入ノ場合ニ應セントスルモノナリ詳細ハ第四編第八章ニ在リ